

『楽しいって難しい』

静岡2隊 上級班長 松浦竹之介

私にとって17NSJは、「ジャンボリー」と名のつくキャンプとしては3回目となる。よくもこんなに機会に恵まれたものだと言え、今更感心するし、機会が与えられることに感謝している。

私は今回上級班長という役割をもって臨んだ。上級班長は言わば現場監督のような立場なのだが、私は実労働的な面よりもむしろ「いかにジャンボリーを楽しませるか」という課題が大きく感じた。楽しい。楽しいって難しい。誰も楽しみの価値観は異なるし、経験や情報量の差から来る意識の違いも確実にある。私の尺度で楽しさを演出しても、それが万能ではない。楽しさは自分で見つけ出す以外に得る手段が無いのだ。

では、楽しさを探させるために私は何ができるだろう。散々考えた私は、仲間たちを休ませることにした。体と心は連動する。疲労とストレスは共犯する。元気と楽しさは互いを高め合う。だから私は、とにかく休ませることにしたのだ。よく寝て疲労を抜けば、つまらないことでイライラしないし、感情的に激昂しないし、理性的な判断ができる。だからとにかく休め。6時間は寝ろ。私も寝る。そう言い続けた。

さて、口すっぱく寝袋に追いやった成果は現れただろうか。私の次か、将又前には、皆が見つけ出した楽しみが記されているだろう。仲間たちが得た喜びを我が事として噛み締め、この文章の締めくくりとする。

「スカウトは、快活である」。